

## メラニン抑える遺伝子 三重大准教授ら発見

日焼けやシミの原因となるメラニンを抑える遺伝子を、三重大大学の伊藤智広准教授と株式会社ユーグレナ（東京）が発見した。「サイエンティフィック・リポート」の電子版に掲載された。

シミなどの肌の色素沈着は、紫外線やホルモン異常によって肌にメラニンがつくられるのが原因。抗酸化作用を持つビタミンCが、メラニンを抑える効果があるとされる。

伊藤准教授の研究は、紫外線と同じ働きをするホルモンを色素細胞に注入し、メラニンがつくられる過程を分析した。すると、細胞の中で、2種類のマイクロ

化粧品など実用化めざす

RNAと呼ばれる遺伝子が、メラニンの生成を抑える働きをみせた。

さらに分析すると、そのRNAの数が多いほど、メラニンが生成される量も少なくなることがわかった。そこで人工的につくったRNAを、人を模した皮膚のモデルに投与したところ、メラニンが抑えられることを確認した。実際の人々の色素細胞でも同様の効果が期待できるという。

今後はこのRNAを含んだ化粧品や美白剤の開発にユーグレナと取り組み、実用化をめざすという。

（村井隼人）